

ごあいさつ

はじめまして!

アニメーション作家の^{すきから まきん}鋤柄 真希子です。

手描きのアニメーション作品を作っています。

10分前後の短い作品なのですが、ひとつの作品を完成させるのに何年もかかります。制作中は家にこもっているのですが、コロナ前から人と接する機会が、少ない生活を送っていました。最近そのことに寂しさを感じるようになり、もっと人とつながりたいという思いから、

スキマキ新聞「パロル」

を発行することになりました。
パロルとは“話レこじば”
という意味です。誰かとお茶を
飲みながら、好きなものや、
なんでも面白いことを、お話し
しているような新聞になれば
いいなと思っています。

パ
ロ
ル

スキマキ新聞



FREE

sukimaki tree

黒インク 水彩紙 Gペン

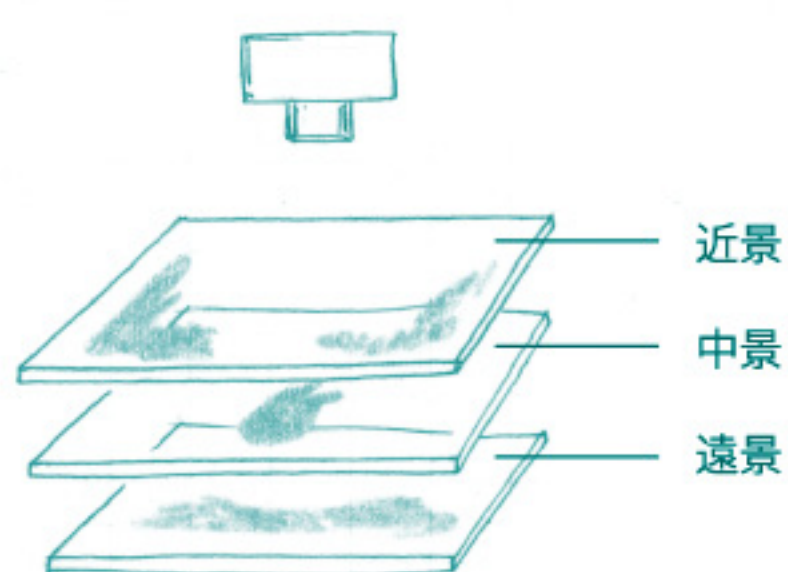
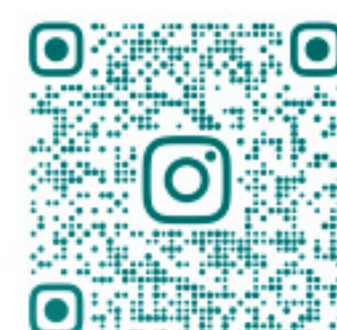
これまでに制作したアニメーション作品に登場する動物たち。上からウサギ、ヤマネ、カラス、サワガニ、やまなし、マッコウクジラ、ダイオウイカ、カゲロウ。木のように連なって月へ向かっています。なぜ月なのかというと、現在制作中の最新作『LUNATIC PLAN (e)T』が月を舞台にした SF ファンタジー (!) なのです。NHK 番組「漫勉 neo」を見てハマっている G ペンを使って描いてみました。

Instagram

Instagram に短いアニメーションや、ちょっとしたスケッチを投稿しています。たまにインスタライブでメイキングの配信もします。スキマキ新聞「パロル」のライブ配信アーカイブもあるよ！お気軽に「パロル」のご感想をお送りいただけると嬉しいです。



<https://sukimaki.com>



マルチプレーン技法

スキマキアニメーションでは、マルチプレーン撮影台を使って作品を作っています。絵を近景、中景、遠景に分解し、隙間をあけて積層させたガラスに置きます。上から撮影すると絵に奥行きが生まれます。ディズニーが考案されたとする技法ですが、デジタルになる前は日本でも使われていました。現代ではほとんど使われることのない技法ですが、不思議な空気感を絵に付与することができます。

スキマキアニメーションの過去の作品では、マルチプレーン撮影台を使って様々な表現を試みました。2019 年に完成した『深海の虹』では、反射光や直接光、ブラックライトなどを使って、光を動かしています。後半に出てくる虹色に光るダイオウイカは、今までの技法の集大成と言える自信作です！ホームページで予告編を観ることができるので、ぜひのぞいてみてください。『深海の虹』のメイキングやエッセイを収録した ZINE-blue- が付いた DVD&Blu-Ray も販売しています。

『LUNATIC PLAN(e)T』制作日記 #01

新作アニメーション『LUNATIC PLAN(e)T』は、地球から月へと移り住んだ動物たちが植物にメタモルフォーズし、森を作るというSF作品です。ネズミ、キリン、ゾウ、オオカミ、クマ、フクロウ、などのたくさん動物が登場します。キリンは白樺、ゾウはセコイア、といった具合にその動物からイメージされる植物へと姿を変え、本来ならありえない生態系の森を作っていきます。

スキマキアアニメーションは私、齋柄真希子と松村康平の2人で制作をしています。主な役割は松村さんが脚本・撮影、私が絵を描いています。完全に役割を分けているのではなく、松村さんも絵を描くし、撮影のセッティングは松村さん主導だけど、撮影は2人でやるという感じですよ。特に脚本の段階ではたくさん話をして、ふたりの価値観が混ざり合うような作り方をしています。

松村さんは『LUNATIC PLAN(e)T』で「故郷」を描きたいのと言います。故郷とは何だろう？という問いを松村さんから投げかけられ

ました。昔住んでいた家？家族？国？それらは確かに答えのひとつなのだけど、何かしっくりこない気がします。

望郷の念に駆られる時、とても寂しい気持ちになります。これと同じ気持ちを最近味わいました。昨年の春、子どもを産みました。赤ちゃんの成長は想像を絶するほど早く、ぐんぐん大きくなり、できることがどんどん増えていきます。私はその速さについていけず、置いてけぼりをくらった気持ちになりました。子どもを産んだあの時にはもう戻れない、そう思うと心の底から寂しさが溢れてきます。故郷を思う時、頭に浮かぶのは過去の情景です。歳を取れば取るほど望郷の念が大きくなるのは、帰ることができない過去が増えるからかもしれません。

未来と過去をイメージする時、自分の前に未来があり後ろに過去があると思っていました。でも南米にこれとは逆の概念を持っている民族がいるそうです。自分の後ろに未来があり前には過去がある。つまり自分は過去を

見ながら後ろ向きに進んでいるのです。自分が進んできた道に故郷があるのか、その道が故郷そのものなのか。

『LUNATIC PLAN(e)T』で動物たちが自らの姿を変えて森を作る意味は、故郷、を考えていく中で見えていくのだと思います。

◎『LUNATIC PLAN(e)T』制作バトロンの募集
バトロンの限定ブログの配信や、原画やグッズのラインがあります。詳しくはホームページをご覧ください。

『散歩する無意識』 — 松村康平映画評 vol.1 —

“The Matrix Resurrections” (2021)
Director Lana Wachowski

『マトリックス レザレクションズ』はシリーズを象徴する垂直に流れる緑色のコードの羅列を鏡や窓を流れる結露の雫という自然現象に置き換えることによって、世界の電腦化を描いた（その後、現代のSNSに横溢するフェイクニュースや陰謀論に寄与したとレッテル貼りされるに至った）過去作の呪縛を振り切るように、前作からおよそ20年の時を経て「蘇生」する。本作は間違いなく或る映画だけが持ち得る特殊な歴史的環境やインターテクスチュアリティを知らなければ面白さが全く伝わらない（e.g.『ゴダールの映画史』『TAKESHIS'』etc.）というリスクを孕んでいるにも拘らず、「ファンタジーが不可能になった時代」という宮崎駿監督の諦念を他所に、セルフパロディとは異なる自己更新、監督自身の社会や政治とのコミットメントを通して、新たなメッセージを突きつけてくる。（ラナ・ウォシャウスキー監督はMatrixから抜け出して本当の自分と出会うために疾く性に転換を果たしている。）

バレットタイムを超える革新的ヴィジュアルがなくとも、キアヌ・リーブスのお腹がぼっこり出ていようと、もはや空を飛べなくとも、エージェントに恋話を除き見られようと、私たちはそれらを承知で人と繋がって、現実に向き合い乗り越えていかなければならないことを思い知らされる。

トリニティがMatrix世界に訪れる朝焼けに包まれて思わず「美しい」と口にしてしまう瞬間、染み付いてしまった仮想世界が剥がれ落ち、私たちはここではない確かな世界への決意を抱くのだ。

猫を拾った話

今から8年ほど前、実家の近所でクエスチョンと出会った。クエスチョンは捨て猫で、引っ越しで置いていかれたらしい。飼われていた家から離れることができず、同じ場所をウロウロしていた。最初からとても人懐っこい猫だった。捨てられたこと以外は、人間に酷いことをされたことがなかったのだと思う。

同居人の松村さんを説得し、車で隣町の我が家に連れて帰った。安心できる場所から突然引き離され、車中では私の腕の中で爪を立て小さく震え泣いていた。団地の5階にある我が家に着くと、家中を散策しそこら中の匂いを嗅いだ後、私の側に寝転び毛繕いを始めた。私は猫を連れてきたことに少し興奮していて、ドキドキしながら猫の行動を観察していた。夜、私が布団に入ると布団の周りを2回周り、私の耳もとでニャアと鳴いた。布団を少し持ち上げるとスルリと入ってきて、私のお腹のあたりで丸くなりゴロゴロと喉を鳴らしている。あまりの可愛らしさに何かいけないことをしているような気持ちになった。朝起きるとリビングにある植木の砂がかき出され、臨時のトイレが作られていた。

松村さんはシッポが曲がっているその猫にクエスチョンという名前をつけた。

我が家の暮らしにすっかり慣れたクエスチョンだけど、時々窓の外をじっと見ている。そのうしろ姿を見ると、切ない気持ちになり、連れてきて良かったのだろうかという思いが湧いてくる。捨て猫は可哀想だというのは人間目線の価値観で、寿命は短くなるけど野良猫として自由を満喫できる方が良かったのでは、と思ってしまう。狭い団地に閉じ込められ、大好きな土にも触れず、死ぬときに身を隠すこともできない。私のエゴで連れてきてしまったことを申し訳ないと思う一方で、クエスチョンの鳴らす喉の音を聞くたびに、必要とされる喜びを感じてしまう。

展示のお知らせ 『LUNATIC PLAN(e)T』展 #1

2022年3月下旬予定

京都二条にリニューアルオープンするえほん館「むむむ」で、『LUNATIC PLAN(e)T』展 #1 を開催します。イメージスケッチやグッズを展示販売させてもらう予定です。えほん館は京都で30年以上続く児童書専門店。桂のお店が二条に移転します。名前をえほん館「むむむ」に変えて新規オープン！京町屋を改装したお店はなんともあたたかい雰囲気。1階の畳のお部屋でゆっくり本を選ぶことができます。2階はいろんなイベントができるスペースになっていて、今回の展示は2階を使わせてもらいます。展示に関連した店長チョイスの絵本も並びます！中庭には小さな植栽スペースがあり、石のカメさんがいます。

◎ 詳細は決まり次第SNSでお知らせします。

えほん館「むむむ」
京都市中京区西ノ京池ノ内町23-5
Open: 10:00 - 18:00（金曜日は19時まで）
定休日：火、水
<https://ehonkan-kyoto.com>

